

法人本部

ア 「障がいを引き受けて生きる」

採用時研修で「障がいがある方を見つめるまなざし」という講義を担当させていただいています。障がいがある子の保護者としてのこれまでの経験や思いをお話ししています。

こんな話が「1/4の奇跡」という本に書いてあります。

『障がいがある子はこれまでも今もこれからも、必ず生まれてきます。ならばそれは、「生まれてこなければならぬ。」と言い換えることができます。つまり「障がいと共に生きるという役割を引き受けて生まれる人」がいるということです。だから、その役割を引き受けて生きる人たちを社会全体で支えていくのはごく自然なことです。』

この考え方を広げていきたいとずっと思ってきました。機会をいただくたびに、伝えてきました。

これからも伝えていきたいと思います。

イ 「信頼関係」について

【信頼関係】について「エフォートレス思考」という本の一節。これを紹介するのも3年目。「またか？」と思われるでしょうが、日々の業務の中で、つくづく実感しているので、何度でも自らを見つめなおし、皆様と共有していきたいと思います。「また」ですが、どうぞご容赦ください。

『他人との共同作業をもっと簡単にする方法がある。それは信頼だ。信頼があれば、人々の調整にかかる労力が少なくてすむ。素早く仕事を分担できるし、問題が起こっても率直に話し合うことができる。貴重な情報を独占せず共有できる。わからないことがあれば気軽に質問できる。意思決定のスピードと質が上がり政治的な争いが減る。一緒に働く経験を楽しむことができる。そして、人間関係の調整に手を焼くことなく、最優先の仕事にエネルギーを集中できる。その結果、パフォーマンスは飛躍的に向上する。『あなたの判断を信頼する。』この言葉を心から言えるとき、チームは魔法のようにうまくいく。』

職場での信頼関係は、ひとりでの勝手に出来上がるものではありません。職員一人一人の努力が必要というわけです。「お互い」が努力して、積み重なって築かれるものです。

では、利用者さんとの信頼関係はどうでしょう。まず私たちが利用者さんへ尊厳の気持ちを持つことは土台です。利用者さんを知り、特性を受け入れ、支援者として知識や経験を積んでいくことも重要です。まず、「私たちから」理解に努め、利用者さんに共感し、共に歩む気持ちを持ち続けていきたいと思っています。

ウ 事業所間の連携について

利用者さんご自身や保護者の方の高齢化により、法人内の事業所間・他法人の事業所と

の連携・情報共有の重要性は増しています。お勤めの事業所からの視点だけで利用者さんを見るのではなく、他事業所とのつながりや社会生活全般ひいては人生のトータルを考えて見つめていくことがますます求められると感じています。

エ 研修の充実

おかげ様で、福祉の仕事（障がい者支援、高齢者介護など）に関心を寄せてくださる方がいることをありがたく思います。しかし同時に、そういう方を育てていく研修の役割の重要さも大事になってくると感じております。

法人の理念であるところの、障がいを抱えながらも「住み慣れた地域でずっと暮らし続けていきたい」という思いに寄り添うことのできる支援者であるために、私たちは

その人を理解することを深めていく（人を知る）

その人を支援する具体的方法・技術を深めていく（人とのかかわり方を知る）

どういうまなざしを持ち、見守っていくか（障がいのとらえ方、権利擁護）などを柱にして、研修に取り組んでいきたいと思ひます。

（文責：勾坂文明 早川麻由美）